

六郎次郎殿御返事

建治三年三月一九日 五六歳

白米三斗油一^{ひとつ}筥^{おわ}給^おび^わ畢^おんぬ。いまにはじめぬ御心ざし申しつくしがたく候。日蓮が悦び候のみならず、釈迦仏定んで御悦び候らん。「我則歡喜諸^{やく}仏亦然」とは是なり。明日三位房をつかはすべく候。その時、委細に申すべく候。恐々。

三月十九日

日 蓮 花 押

六 郎 次 郎 殿

次 郎 兵 衛 殿